

Summaria 調査報告書

優れている点と今後の動向を踏まえた賢い利用方法

調査基準日 2026 年 10 月 17 日 | 公開情報に基づく評価

GPT-6 Astra

Summaria（サマリア）は、特許調査から分析、明細書作成、中間処理までを横断して支援する生成 AI サービスである。少人数の知財部門や特許事務所が、調査と権利化の作業を一つの環境で効率化する候補として有力と評価する。特に、審査実務を反映した検索語の拡張、検索後の分類・評価への接続、汎用 AI から特許データを利用できる MCP 対応に価値がある。[1][2][3]

推奨する使い方は、定型的な大量処理をサマリア上で進め、個別の深掘りや仮説検討を MCP 接続先の AI で行い、人が調査範囲・評価基準・最終判断を管理する運用である。導入判断では機能の数より、見落とし、根拠確認、修正時間を含む実務全体の改善を測る。

1 調査の範囲と読み方

本報告は、公式サイト、操作マニュアル、機能更新案内、企業発表、導入事例、技術顧問による解説、およびユーザー提供の比較資料を調査してまとめた。実環境での操作試験や、競合製品との同一条件での性能比較は実施していない。価格・機能・接続先・データ収録範囲は調査基準日時点の情報として扱う。

以下では、公式資料で確認できる仕様・更新と、それらから導いた評価・利用提案・将来予測を区別する。企業が発表した検証結果と導入事例は有用だが、独立した第三者による性能保証ではない。本文の参考文献番号は、文末の出典詳細に対応する。

2 サマリアでできること

業務領域	主な機能	実務で生まれる価値
調査設計と検索	発明・製品からの調査観点整理、検索式と検索集合の作成、類語シソーラス拡張。[4][5]	検索の初期設計を速め、表現の違いによる検索漏れを減らす。
スクリーニング	記載内容の評価に加え、請求項と製品の構成要素を対応付ける属否評価を支援。[2][6]	大量文献から優先して読む候補を絞り、判断根拠の確認に時間を使える。
分類と分析	分類体系の作成・拡張、ラベル付与、課題と解決手段のマトリクス作成。[2][7]	自社の事業課題や技術課題に沿って特許群を整理できる。
権利化と中間処理	明細書作成、拒絶理由への反論・補正案の検討。明細書作成では Ask・Plan・Agent のモードを整備。[2][8]	構成案を確認してから生成し、修正を重ねながら文案を作れる。
特許翻訳	原文と翻訳文の段落・文単位の対照、用語の統一を支援。[9]	外国文献の理解と訳文チェックを同じ流れで行える。

業務領域	主な機能	実務で生まれる価値
外部 AI との接続	MCP を通じて Claude、ChatGPT、Copilot、Gemini Enterprise などからサマリアのデータベースにアクセス。[3][10]	普段使う AI の対話環境で特許検索や個別文献の検討を進められる。

各機能は目的に応じて使い分ける必要がある。たとえば、先行技術調査で必要な「ある技術が文献に記載されているか」と、FTO で必要な「製品が有効な請求項の各構成要件を満たすか」は、同じ評価ではない。属否評価の出力を使う場合も、実際に与えた製品情報と評価対象の請求項を確認する。[6]

3 優れている点とその実務上の意味

3.1 審査実務に基づく検索語の拡張

類語ソーラスは、10 万件以上の拒絶理由通知から抽出した認定・対応関係を利用する仕組みと説明されている。一般的な辞書の同義語だけでは拾いにくい、特許文献で使われる表現や審査官の対応付けを調査に取り込める点が特徴である。[5]

この機能は、別の言い回しで記載された関連文献を探すための手掛かりとして使うと有効である。ただし、ある拒絶理由通知で対応付けられた二つの語が、別の技術分野・別の請求項でも常に同義とは限らない。拡張語は人が技術的な適切さを確認し、採用語と除外語を残す。

3.2 検索から評価と権利化へつなげやすい

検索、集合の作成、分類、文献評価、レポート化、明細書作成、中間処理支援が用意されており、単発の要約を超えて業務の前後をつなぐ構成になっている。[2] これは、担当者が複数の役割を持つ小規模組織ほど価値を得やすい。検索結果を再整理する時間や、評価基準を別の道具へ転記する手間を削減できる可能性がある。

一方、出力内容は入力範囲に依存する。レポート機能では、本文を参照対象に含めたかどうかによって、AI が利用する情報が変わる。公報を登録しただけで全文を根拠にした分析が行われたと考えず、どのデータを与え、何件を実際に取得・評価したかを記録する。[11]

3.3 自社の判断軸で特許群を整理できる

分類体系と課題×解決マトリクスは、IPC・FI などの既存分類をそのまま集計するだけでは得にくい、事業に近い整理に向いている。たとえば、顧客の困りごと、性能、コスト、製造性、安全性、用途、解決原理を軸にして、研究開発部門と会話しやすい特許群を作れる。[2][7]

分類軸の設計そのものは利用者の重要な仕事である。マトリクスの空欄は、検索漏れ、分類の粒度、用語差、データ更新の遅れによっても生じる。特許件数の少なさだけで事業機会と判断せず、市場性、顧客需要、技術的実現性を別途確認する。

3.4 MCP で対話的な検討を進めやすい

MCP は、AI アプリケーションから外部のデータや機能を利用するための接続方式である。サマリア MCP を使うと、汎用 AI との対話で調査観点を調整し、その流れで特許情報を取得する運用を組み立てられる。[3][10]

サマリア MCP は参照・取得を中心とする連携であり、サマリア本体の全機能や一括処理をそのまま外部 AI から実行できると解釈すべきではない。対応する操作を確認したうえで、探索、少数文献の比較、仮説への反証探しに使うとよい。大量の定型処理は本体側に集約し、外部 AI では問いの改善と深掘りを行う分担を推奨する。[10]

4 実績から何が言えて何がまだ分からないか

4.1 再現率 100 パーセントという発表の読み方

2026 年 9 月 10 日の企業発表では、2024 年の特許検索競技大会の過去問を使った検証で、電気 4 件、機械 8 件、化学・医薬 14 件の対象文献を、それぞれ上位 30 件にすべて含めたと報告されている。対象となった正解文献は合計 26 件である。[12]

これは、特定の問題集合で優先順位付けが有効だったことを示す材料である。あらゆる技術分野や実案件で再現率 100%になること、未知の関連文献が存在しないこと、FTO の結論が正しいことを意味しない。正解集合、検索母集団、利用した評価条件に依存するため、自社案件で追試する必要がある。

同発表の読解時間削減の説明は、文献 1 件を読む時間や従来の確認件数を置いた試算として読むべきである。検索式の修正、根拠の照合、誤判定の補正、報告書のレビューまで含めた実測値と分けて評価する。[12]

4.2 導入事例は運用設計の参考になる

事例	確認できる利用場面	導入時に取り入れたい点
カヤバ	分類や分析に利用し、自社で人が付けたラベルとの比較などを行う事例。[13]	既存案件を基準に分類の品質を評価する。未知の分野や外国文献の理解支援から始める。
IPX	拒絶理由通知と関係文献の理解、中間応答の検討を効率化する事例。[14]	初期理解を速める用途と、反論・補正の最終的な妥当性確認を分ける。
日用品メーカー	200～300 件規模のスクリーニングや日本語要約、分類への活用。想定外の出力や指示の難しさにも言及。[15]	処理件数だけでなく、評価指示の調整と誤判定の修正に要する時間を測る。

公式サイトの利用者アンケートには、2023 年 4 月・回答 18 人で、5 段階評価の 3 以上を付けた回答が 83%という結果がある。サンプルは小さく、現在の機能構成とも異なるため、最新の満足度や競合優位性の決定的な根拠にはしない。今回の調査範囲では、大規模な独立比較試験は確認できなかった。[16]

5 最近の更新と今後の動向

5.1 確認できた機能拡張

発表時期	主な変更	利用者への意味
------	------	---------

発表時期	主な変更	利用者への意味
2026 年 8 月 20 日	明細書作成支援の大型更新。Plan モードなどで生成前の構成・計画を調整。[8]	人が計画を確認してから文案を作る運用を組み込みやすくなる。
2026 年 9 月	MCP による外部 AI 連携と特許翻訳の機能整備。[3][9]	普段使う AI や外国文献の読解と特許実務がつながる。
2026 年 9 月 29 日	課題×解決マトリクス、EoU 調査向け機能の追加。[7]	技術群の整理と、特許に関する製品候補・利用情報の探索を支援する。
2026 年 10 月 6 日	日本の書誌・経過情報 110 項目を収録し、週次で更新。レポートや MCP で利用。[17]	公報本文に加え、手続や権利状態に関する情報を検討に取り込みやすくなる。
2026 年 10 月 14 日	日米の審査経過・包袋情報への対応、PowerPoint による文書一覧作成、MCP 関連の更新。[18]	審査の経緯を踏まえた検討と、社内共有資料の作成に接続する。

日本の包袋情報取得では、特許庁 API の利用に必要な認証情報など、利用者側の設定が必要になる機能がある。更新案内に掲載された機能でも、契約条件、取得可能な情報、外部サービスの制約を確認して運用する。[18]

5.2 今後についての見立て

以下は公開された更新傾向からの推論であり、提供時期が確約されたロードマップではない。

第一に、対象業務は調査担当者の文献処理から、発明者・研究開発・知財の共同作業へ広がる可能性が高い。明細書の計画作成、課題と解決手段の整理、外部 AI 連携という更新は、この方向と整合する。提供元も発明創出支援へつながる開発の方向性を説明している。[8][7]

第二に、分析の単位は公報本文から、審査経過や関連文献を含む案件全体へ広がると考えられる。経過情報や包袋の利用が進めば、請求項がどのように変化したか、どの点が審査で争われたかを検討する機会が増える。入力資料の欠落や取得時点の管理も、これまで以上に重要になる。[17][18]

第三に、実務上の差は、搭載モデルの新しさだけでなく、検索の網羅性、原文の根拠への戻りやすさ、再現できる評価条件、社内で継続利用できる運用設計に表れると考える。今後の評価では、機能追加の数に加え、取得件数の上限、ログ、入力範囲、分類の維持、検証のしやすさを確認したい。

6 賢く使うための業務設計

6.1 最初に調査条件を一枚にまとめる

AI に依頼する前に、目的、対象製品・技術、対象国、期間・基準日、必須構成、除外範囲、判断保留にする条件、必要な証拠を短く明文化する。検索に使う広めの条件と、候補文献を採否判定する条件を分けると、早い段階での絞り込みによる見落としを抑えやすい。技術顧問による解説も、調査観点の設計と該否判断の分離を考える参考になる。[19]

同じ案件でも、「技術の存在を探す」「製品との対応を確かめる」「事業機会を探す」では必要な証拠が異なる。要約が読みやすいことと、調査目的に必要な証拠がそろっていることを別々に確認する。

6.2 目的別の推奨ワークフロー

目的	推奨する使い方	人が確認する点
先行技術・無効資料調査	観点を分解し、検索語・分類を広げ、候補を評価して対比表を作る。	基準日前の公開か。構成や関係がどこに記載されるか。複数文献の記載を一つの文献の開示として混同していないか。
FTO・侵害予防	製品仕様を整理し、候補特許と請求項の対応表、追加調査事項を作る。	対象国の現行請求項、法的状態、構成要件の解釈、製品情報の不足。AI 出力だけで非侵害を確定しない。
継続監視・SDI	固定した検索式で新着集合を作り、共通ラベルで分類し、重要案件を抽出する。	検索式の陳腐化、新規参入者、分類基準のずれ。関係しないと判定した文献の一部も確認する。
IP ランドスケープ	母集団を整備し、事業に沿う分類で課題×解決マトリクスを作り、重要文献を読む。	ファミリー重複、出願人名寄せ、収録範囲。市場・顧客・事業情報を補って解釈する。
明細書・拒絶対応	発明事実と根拠資料を与え、複数の構成案や反論・補正案を比較する。	原記載の根拠、技術的整合性、過去の主張との関係、事業上確保したい範囲。
EoU 調査	公開ウェブ情報から製品候補と対応情報を集め、URL と未確認事項を一覧にする。	公開情報が実際の製品構成を示すか。候補抽出を侵害認定として扱わず、追加調査へつなげる。

上表は本報告の推奨運用である。関連機能として、検索・スクリーニング、SDI、明細書作成、課題×解決マトリクス、EoU 調査が提供されている。[2][6][20][8][7]

6.3 FTO では情報不足を不一致に変えない

請求項と製品の対応を評価するときは、少なくとも「対応を示す根拠がある」「不一致を示す根拠がある」「製品情報が足りない」「請求項の解釈が必要」の四つを区別する。後二者は保留とし、追加調査・専門判断に戻す。説明が見つからないだけで構成要件を満たさないと判断すると、危険な見落としにつながる。

製品パンフレットやウェブサイトにも内部構造が記載されていないことはよくある。AI の評価点より、根拠の所在と未確認事項の明示を重視する。サマリヤの利用規約も、生成内容や法的判断の確実性を保証するものではない。[21]

6.4 SDI を継続的な知見に変える

サマリヤの SDI では検索式による集合の更新を利用でき、設定可能数には同時アクセス数に連動した条件がある。公式マニュアルでは同時アクセス数の 10 倍と説明されている。契約時点の条件を確認したうえで、監視対象を重点化する。[20]

日次または週次で新着候補を整理し、週次で重要案件を読み、月次で競合の変化と事業上の意味を議論する運用が考えられる。個別特許の理解から、競合の出願傾向、さらに研究開発・提携・回避設計への判断へつなげる。分類軸を変更した場合は版と変更理由を残し、時系列比較の前提を保つ。

6.5 MCP で使う共通指示の例

以下を案件に合わせて埋め、外部 AI に与える共通指示として使う。特定の機能が実行可能かは接続先と MCP の対応範囲で異なるため、実行できない操作は明示させる。

目的：[先行技術調査／FTO 候補整理／技術動向分析など]。対象技術・製品：[仕様]。対象国・期間・基準日：[条件]。

検索式、検索対象データベース、実行日、ヒット件数、実際に取得した件数、評価した件数を区別して記録してください。

各評価に公報番号、対象の請求項番号、根拠段落または図面を付けてください。確認した事実、解釈・仮説、未確認事項を分けてください。

未取得の文献や確認できない構成を、ゼロ件や不一致と扱わないでください。情報が不足する場合は保留とし、追加で必要な情報を示してください。

結論に反する候補や、検索条件から漏れる可能性のある表現を挙げてください。取得・実行できない操作があれば、その範囲を明記してください。

7 料金と費用対効果の考え方

調査時点の公式料金表では、全機能を利用できるコーポレートプランは年契約で月額 25,000 円、年額 300,000 円、いずれも税別である。30 日当たり 2,000 インストラクションを含む。利用者一人ずつへの課金と単純に同じものではなく、同時アクセス数などの条件を踏まえて比較する。メンバー管理などのオプションもある。[22]

料金表に示される大量処理の目安は、選択モデルや処理モードに依存する。たとえば一定条件で最大 24,000 件相当を処理できるという説明を、あらゆるモデル・評価方式・本文量で同じ件数を分析できるという意味に取らない。まず実案件の平均消費量を測り、余裕を含めた月次予算に直す。[22]

MCP は対象となるコーポレート・ビジネスプランで利用でき、サマリア側のインストラクションを追加消費しないと案内されている。一方、接続先の AI サービスの契約料金、利用制限、処理上限は別である。[10]

費用対効果は「利用料÷処理件数」だけでは把握できない。利用料、外部 AI の費用、初期設定、評価基準の作成、操作習得、根拠の照合、誤判定の修正を合計し、同じ品質の成果に到達する総時間と総費用を比較する。大量候補の一次整理では比較的低コストの設定を使い、難しい候補を高性能な設定で再評価する段階的な運用が考えられる。ただし、一次段階で除外された文献を抽出確認し、取りこぼしを測ることが条件になる。

8 セキュリティと収録範囲の確認

公式説明では、ISO/IEC 27001 認証、保存・通信の暗号化、AI モデルの学習に入力データを使用しないことなどが示されている。ただし「学習に使わない」と「外部に送信しない」ことは別であり、利用機能に応じて情報が AI 提供者の API へ送信される。機密情報を扱う場合は、サマリアと接続先 AI を含むデータの経路全体を社内ルールと照合する。[23]

契約終了時のデータ削除は、自動的にすべて完了すると想定せず、削除条件・手続を確認する。独自の AI 接続先やローカル LLM に関する相談の案内があっても、標準プランが完全な閉域環境で動作することを意味しない。未公開発明を投入する前に、適用される構成と契約を確定する。[23]

収録国が多いことだけで、すべての国について同じ範囲の全文検索や SDI、同じ更新頻度が提供されるとは限らない。公報の取得、検索対象、翻訳データ、監視対象の範囲を目的別に確認する。公式マニュアルには国・データ種別ごとの収録と更新条件が示されている。権利状態に関わる重要な判断では、情報の取得日と更新間隔を確認する。[24][17]

9 既存の比較資料をどう読み替えるか

ユーザー提供の「生成 AI 特許分析ツール 6 製品の比較」では、サマリアは 45 点満点で 39 点、IP ランドスケープ・戦略分析で 76%、調査・権利化で 100%と評価されている。同資料は、公開情報に基づく 15 観点を◎・○・△・ーで採点したものであり、同じ実案件に対する再現率や回答精度の実測結果ではない。[25]

この評価は「機能の広さと導入候補の整理」に使うと有効である。調査・権利化の 100%を、すべての調査が完全になることや、成果物の品質が満点であることと読み替えてはいけない。現在の検討では、公開情報上の機能評価に、自社案件での取りこぼし、根拠の正確さ、確認・修正時間、データ範囲、総費用を加えたい。

競合との優劣は用途によって変わる。サマリアの強みは、調査と権利化を幅広く支え、日本語の特許実務に沿った機能を比較的導入しやすい価格帯でまとめている点にあると評価する。他社より常に高精度、最安、最も自動化されているとまでは、今回の公開情報から結論付けられない。

10 導入判断のための三週間の試行案

公式サイトは 3 週間の無料トライアルを案内している。申込時の対象プランと利用条件を確認し、以下のように評価期間を区切ると導入判断につなげやすい。[2][16]

期間	実施すること	判定材料
第 1 週	過去の解決済み案件を使い、検索式、評価基準、出力形式を調整する。	既知の重要文献を拾えるか。根拠を正しく示すか。調整に必要な時間はどれくらいか。
第 2 週	調整に使っていない別案件で検証する。途中の基準変更を記録する。	再現率、見落としの内容、保留率、根拠誤り、レビュー時間。既知案件だけへの適合を避ける。
第 3 週	SDI または公開済み案件の中間対応など、一つの実務を一巡させる。	入力から最終確認までの総時間、消費量、修正量、担当者が継続利用できるか。

初期用途としては、既存の監視業務、正解が分かる過去の無効資料調査、公開済み案件の拒絶理由の理解などが検証しやすい。最初から全業務を置き換えるより、一つの反復業務で品質と時間の改善を確認し、その結果に応じて対象を広げる。

導入可否の基準は、試行前に決めておく。重大な見落としが許容できるか、結論を裏付ける原文へ戻れるか、レビューを含めても時間が短くなるか、機密情報の利用条件を満たすか、月間費用が予算内かを確認する。

サマリアを賢く使う目標は、読んだ特許の件数を増やすことだけではない。整理や初期読解にかかる時間を減らし、重要な文献の精読、発明者との対話、回避設計、事業上の選択肢の検討に時間を振り向けることである。

参考文献

本文の番号順に掲載した。ウェブ資料の最終閲覧日はすべて 2026 年 10 月 17 日。公式マニュアル等は随時更新されるため、導入時には最新の条件を確認する。企業発表・導入事例は提供元による資料、技術顧問の記事は当該立場での解説として扱った。

[1] パテント・インテグレーション. サマリアとは.

公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://summria.jp/about>

[2] パテント・インテグレーション. 機能リスト.

公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://summria.jp/features>

[3] パテント・インテグレーション. 生成 AI で特許業務を効率化する「サマリア」、MCP に対応。Claude・ChatGPT・Copilot・Gemini Enterprise からサマリアデータベースへ直接アクセス可能に.

2026 年 9 月 8 日、PR TIMES 掲載の企業発表。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000086119.html>

[4] パテント・インテグレーション. 検索式・検索集合作成.

サマリアマニュアル、2026 年 10 月 1 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summria/manual/research_creat

[5] パテント・インテグレーション. 類語シソーラス拡張.

サマリアマニュアル、2026 年 9 月 30 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summria/manual/recognition_thesaurus

[6] パテント・インテグレーション. スクリーニングツール（属否評価（充足論））.

サマリアマニュアル、2026 年 9 月 30 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summria/manual/research_screening_2

[7] パテント・インテグレーション. 「課題×解決マトリクス作成ツール」・「EoU 調査」用機能の搭載 2026 知財・情報フェア講演のウェビナーのご案内.

2026 年 9 月 29 日付、同年 10 月 5 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summria/manual/R_20260929

[8] パテント・インテグレーション. 明細書作成支援機能の大型アップデート 今後の開発ロードマップのご案内.

2026 年 8 月 20 日付機能更新案内。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summria/manual/R_20260820

[9] パテント・インテグレーション. 特許翻訳ツール.

サマリアマニュアル、2026 年 10 月 9 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summria/manual/literal_translation

[10] パテント・インテグレーション. サマリア MCP.

サマリアマニュアル、2026 年 10 月 5 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://patent-i.com/summaria/manual/mcp>

[11] パテント・インテグレーション. レポート機能.

サマリアマニュアル、公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://patent-i.com/summaria/manual/report>

[12] パテント・インテグレーション. 生成 AI による特許調査サービス「サマリア」、特許検索競技大会の過去問検証で電気／機械／化学・医薬の 3 分野で再現率 100%（上位 30 件）を達成.

2026 年 9 月 10 日、PR TIMES 掲載の企業発表。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000028.000086119.html>

[13] パテント・インテグレーション. サマリアが変革する IP ランドスケープ～効率的な分析で未来を切り開く.

カヤバの導入事例、公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summaria/customer/I_20240418

[14] パテント・インテグレーション. 中間応答対応にサマリアは活用可能！「拒絶支援機能」で中間応答が加速！.

IPX の導入事例、公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summaria/customer/I_20240514

[15] パテント・インテグレーション. スクリーニング機能で業務効率化を！渉外・クリアランスでフル活用.

日用品メーカーの導入事例、公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summaria/customer/I_20240413

[16] パテント・インテグレーション. 導入実績.

公開日記載なし。2023 年 4 月の利用者アンケートを含む。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://summaria.jp/customers>

[17] パテント・インテグレーション. 日本の書誌・経過情報を収録 レポート機能の改良 2026 知財・情報フェア講演のウェビナーのご案内.

2026 年 10 月 6 日付機能更新案内。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261006

[18] パテント・インテグレーション. PowerPoint で文書一覧作成・審査経過の包袋情報に対応 第 5 回サマリアユーザ会・サマリア MCP ウェビナーのご案内.

2026 年 10 月 14 日付機能更新案内。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261014

[19] 角渕由英. サマリア MCP を利用した調査観点設計、該否判断のポイント.

note、2026 年 8 月 30 日。著者はサマリアの技術顧問。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://note.com/tsunobuchi/n/n2baf8350036a>

[20] パテント・インテグレーション. 検索式による集合作成.

サマリアマニュアル、2026 年 7 月 5 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://patent-i.com/summaria/manual/sdi>

[21] パテント・インテグレーション. 利用規約.

2026 年 10 月 16 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://summaria.jp/terms>

[22] パテント・インテグレーション. 利用料金.

公開日記載なし。金額・条件は閲覧時点。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://summaria.jp/pricing>

[23] パテント・インテグレーション．サマリアのセキュリティ．

公開日記載なし。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://summaria.jp/security>

[24] パテント・インテグレーション．収録公報・公報番号の仕様．

サマリアマニュアル、2026 年 8 月 13 日更新。閲覧日：2026 年 10 月 17 日。

<https://patent-i.com/summaria/manual/database>

[25] 著者名の明示なし．生成 AI 特許分析ツール 6 製品の比較．

2026 年 10 月 13 日時点の調査、同年 10 月 14 日改訂、2～3 頁。ユーザー提供 PDF（表紙に Claude Opus 5.5 と記載）。

受領資料。参照箇所：領域別評価および評価マトリクス。